



今回は、関高卒業生（金沢大学在籍）の留学体験記です。

◇ 金沢大学・言語文化学コース（ドイツ語）の清水琢志さんのドイツ留学体験記

清水琢志さんは関高校の卒業生で、今は金沢大学の四年生。人間社会学域人文学類言語文化学コースでドイツ語を専攻しています。大学からの推薦で、提携関係にあるデュッセルドルフのハインリヒ・ハイネ大学に1年間留学していました。以下はその体験記です。

ドイツ留学へ

私は2016年10月から2017年8月まで、金沢大学から派遣留学生としてドイツに留学していました。この留学体験記を通じて関高校の皆さんに伝えたい事がたくさんあるので、手っ取り早く留学の良さを知りたいという人向けに、先に留学中の生活や体験をまとめて、後半ですでに留学を考えている人への助言を書こうと思います。

まずは私の留学先の大学と、住んでいた町について簡単に紹介をします。私はドイツ北西部のノルトライン・ウェストファーレン州の州都であるデュッセルドルフと言う町の、ハインリヒ・ハイネ大学でドイツ語を中心に学んでいました。この大学の大きな特徴としては、日本語や現代日本文化の研究が非常に盛んだということです。実はこのデュッセルドルフは、ヨーロッパ最大の日本人街を有する町なのです。そのため、食べたければ日本食も比較的簡単に食べることができて、日本人が経営している病院や美容院もあるので、生活のしやすさや安心感は抜群でした。



生活面について

上述したように日本人の多い町だったので、そういった面では一切不便さを感じなかったのですが、ドイツで生活する上で忘れてはならないのが、日曜と祝日にはほぼ全ての店が営業していないということです。多くのドイツ人は土曜日に食料品などの買い物を済ませますが、私がドイツに到着してから最初の週末にそのことをすっかり忘れていて、とてもひもじい思いをする羽目になりました。一部の飲食店とキオスクという小型のコンビニや駅構内の店を除いて、本当に町が静かになります。

私は学生寮に住んでいたのですが、部屋の設備が故障した際に、修理が翌週まで持ち越されるということもありました。以前に日本と比較してドイツの労働環境がどれだけ素晴らしいかという記事を読んだことがありますが、実際に生活してみると、休暇が多いという労働者にとっての長所は、消費者にとってはこのような短所にも成り得るということも分かります。

学校生活について

授業の長さや受講登録の仕方は基本的に日本の大学と変わりがなかったのですが、慣れるのに時間はかかりませんでした。大きな違いは授業形態にあります。ドイツでの授業は学生と教授の距離感が非常に近く、生徒が次々に発言し、教授がそれに答え、更に質問をするというディスカッション形式のものが多くありました。生徒同士のペアワークも重視されます。初めのうちは、他の国から来た留学生仲間の積極性に圧倒されてばかりでした。次第にその授業スタイルにも順応していったのですが、ある日、そういえば授業中全く眠くならないなということに気が付きました。ドイツでは（もちろん日本でもそうなのですが）授業中に寝るということは相当失礼な行為に当

たるそうで、事実寝ている学生を見たことは一度もありませんでした。

授業のない時間帯にはドイツ人の友達と言語学習をしていました。ドイツ語を母国語として話し、なおかつ日本語を勉強したい相手を見つけ、お互いに教え合うという関係をタンデムパートナーというのですが、気軽に間違いを恐れずに会話の練習ができるし、授業では習わない若者言葉や口語を身につけることができるので、非常に効果的な勉強法だったと思います。

休日の過ごし方

日本では買い物に出かけたり、レジャー施設に遊びに行ったり、選択肢は様々ですが、ドイツでは日曜日にそのような店が閉まっているので、一日中部屋に閉じこもりがちです。しかし、せっかくの留学で貴重な休みをゴロゴロして過ごすのはかなりもったいないと思います。私の場合は、週末にはサークル活動や地域のクラブに参加してスポーツをしていました。

それ以外では、せっかくヨーロッパに来ているので、旅行にもよく行きました。デュッセルドルフからならベルギーやオランダは日帰り旅行圏内で、しかも値段も高くありません。こんな機会は留学中でないとなかなか得られないと思います。留学するまで海外経験ゼロで飛行機にすら乗ったことがない私でしたが、最終的にはドイツを含めて7カ国に訪れることが出来ました。難しい話抜きで、恐らくこれが一番周りから羨ましがられることかもしれません。

総括すると、留学はとにかく楽しいです。留学するにあたって強い意志が必要で、それに向かって努力をすることも当然大事なことです。しかしはっきり言ってしまうと、何よりも自分が楽しむことが大切なのではないかと思います。留学前に大学の教授からも「学生的には勉強をした方がもちろん良い。だけど色々な場所に行って、色々な人と知り合って、会話をして、そうして直に体験したことや知ったことのほうが価値があるし、きっと今後の人生とか考え方に影響してくると思う。だから勉強も程々に、たくさん遊ぶと良い」と言われました。

今になって思えば、これは全く正しい助言だったなと感じます。私の場合は、自分の興味がある



テーマについて卒論を書くためにより深く研究がしたかったので留学をしたのですが、いざドイツでの生活が始まると、そのテーマ以外にも詳しく調べてみたい、それどころかむしろこっちのほうが面白いんじゃないかと思うことが次々と見つかりました。

机に向かっているだけでは絶対に気づくことはなかったと思います。また就活を間近に控えている身として、渡航前と比べて興味のある分野が広がり、自分の中での選択肢がかなり増えたと感じます。正しく人生に影響を及ぼすきっかけになりました。

留学を考えている人へのアドバイス

ここから後半部になります。この体験記を読んでいる人の中には、大学生の内に留学したいと考えている人もいると思います。この時間問題になるのは、『何故そう思うのか？留学して何がしたいのか？』ということです。大学から推薦を貰い、更に奨学金を希望するならば、はっきり言って『語学が好きで、勉強したいから』と言うものは理由になりません。なぜならそれは日本の大学でも充分こなせることだからです。実際に、奨学金を支給している団体の大部分は語学留学をする人を募集していません。何か特別なテーマを持った、強い意志のある学生が採用されます。つまり、語学は単なる前提条件に過ぎないということです。それでは、大学や各団体に支援したいと思わせるような、あなた特有の留学目的が思い浮かびますか？

ここで少し、ドイツとはどんな国か考えてみてください。おそらく、ほぼすべての人が「ビール」や「ソーセージ」を想像したでしょう。世界史が好きな人は「戦争」を、スポーツが好きな

人は「サッカー」を思い浮かべたかもしれません。どれも正解です。そしてこんな単純な質問に、留学目的になり得るものが隠されているのです。

たとえば『ドイツビールを日本でも低コストで販売する方法を、現地の醸造所の生産過程や販売経路から模索する』だったり、『Jリーグを盛り上げるため、ドイツのサッカーチームの運営の仕方やスポーツクラブからノウハウを持ち帰る』といったように、大学が送り出すのに十分な理由になります。これらはあくまでもほんの一例です。焦る必要はないので、大学に入って言語を勉強しながら、その国の文化や社会、歴史や文学など多岐にわたって興味を持つようにすれば、自ずと自分のやりたいことが見えてくると思います。

では次に留学の準備はいつからすればよいのかという話をします。あなたが少しでも留学を視野に入れているのなら、高校生のうちから始めることをおすすめします。これは何も、高校の勉強と並行して第二言語を習得しろと言うことではありません。ただ、大学選びの一つの基準として留学に関わる制度の有無を考慮したほうがいいでしょう。

各大学のHPを見れば、どんな国に何人の学生を送り出しているかなどの情報が記載されていると思います。次に注意すべき点が奨学金の有無。現実問題、留学する際に一番問題になるのが費用のことで、地域にもよりますが、少なく見積もっても一年間の留学には100万は必要になるのではないかと思います。しかし奨学金を受給することが出来れば返還不要でその大部分を補うことができます。さらに大学によっては独自の奨学金を設けていることがあります。宣伝になってしましますが、留学に関して言えば金沢大学はかなりこれらの制度がかなり整っています。上記のようなものだけでなく、留学先で取得した単位を日本の大学のものと互換できる仕組みや、海外の協定校の豊富さは非常に心強いつ感じました。日本中の様々な大学から留学している学生と話してみても、金沢大学の留学制度はうらやましがられることがほとんどでした。さすがスーパーグローバル大学を名乗っているだけあるといったところでしょうか。

もちろん大学に入学しても、常に留学したいという気持ちを忘れないでください。これらの制度の恩恵を授かるためには、当然それ相応の人間であることが求められます。ときには数多くの受験者の中から面接やプレゼンテーションを通して、留学生を選抜することもあります。その際にやはり大学での成績は評価基準の一つとして見られます。そのことを常に頭に入れておくべきだと思います。

また、多くの留学生が留学期間について悩むのですが、もし留学をするならば、3ヶ月や半年と言わず是非一年以上の長期で行って欲しいです。短期留学は無駄だとは言いませんが、半年で帰国した友人たちは口を揃えて「もっといたい。全然足りない」と言っていました。自分の経験からも、本腰を入れて自分自身の研究に臨めるのは半年が経ってからでした。ドイツ語能力は明らかに上昇しましたが、それでもドイツ人向けの授業に出席すると半分以上理解できないということも何回もあったので一年留学してもそれは心残りです。

また今回留学したことで私は通常より一年遅れて大学を卒業することになります。これは人によっては長期留学の大きなデメリットだと感じられるかもしれませんが、私はそうは思いません。なぜならそれ以上のメリットが得られるからです。

この莫大な利点の全てをここで伝えることは出来ませんが、それは皆さん自身で実感して欲しいと思います。それでは、皆さんが将来良い留学生生活を過ごせることを願っています。

